

のびのび優等生!

越智 初めに出身地についてお聞きします。

鎌田 赤平の炭鉱町で生まれ、両親とも中学校の教師をしていました。転勤族だったので、田舎ばかりを動いていました。南空知の南幌町、中学の時は幌加内町。雪が深く寒い所で過ごしてました。その後は、富良野と芦別の間にある滝里町という所にもいましたが、今ではダムの底になっていきます。両親と共にずっと田舎回りをしていました。

越智 でも田舎の良さはあったのではないですか。

鎌田 そうですね。田舎なのですることがなく、勉強はしましたね(笑)自分でも何なんですが



小さい頃から優等生で、父兄の信頼も厚く良い子でしたよ(笑)友達と遠くに出かける時も鎌田君といれば大丈夫とお墨付きをもらってました(笑)のびのびと自分らしく過ごしていたと思います。

越智 今ものびのびとした感じはありますね。取りつき易さを感じますよ。

鎌田 子供の頃から転校ばかりで、その場で受け入れられなくてはならなかったため、それも関係あるかもしれませんね。野球もうまかったですよ。いきなり転校してエースで4番をやっていました。

越智 本来に優等生だったようですが、嫌われる優等生ではなかったようですね(笑)

鎌田 高校時代も滝里町から時間をかけ滝川高校へ通っていました。帰り道は街灯もなく真暗な中を懐中電灯を持って家まで帰るとい具合でした。クラブ活動はできませんでしたが友人もすぐでき学校の仲間とバンド(ギターとボーカル)をやりました。大学は札幌医科大学で、やっと都会へ出てきました(笑)

越智 都会での生活はどうでした。

鎌田 本当にどこへ行っても違和感がないんですよ。最初の二年は兄と一緒に住んでいました。そんなりとその生活に入っていました。環境の変化にとまどう事があまりないですよ。ね。大学では極々普通の学生でした。部活とバイトしかしてなかったですね。部活は一人の力

で勝負できるものをしてたくて、バトミントンを始めました。同好会やサークルではなく勝負にこだわるバトミントンをやっていました。そんな感じで大学の六年間を過ごしました。

越智 受け入れる感性は、今の仕事にも大切なことではないですか。

鎌田 そうですね。受け入れるというのはとても大事なことです。患者さんが色々なことを話しますが、顔色を変えずに聞くことが出来ています。



診察室にて

地域精神医療のたのび

越智 卒業後、初めての職場は。

鎌田 まずは医局に所属をして、色々な病院へ派遣されて初期研修を積むという制度でした。私は精神科医を選択し、1年間は大学で研修を受け、その後に帯広厚生病院に来ました。

越智：精神科を選んだというのは、何か思うところがあったのですか。

鎌田：学生の実習で、重度の統合失調症の患者さんに会った時、その方をみていると精神疾患は環境の問題ではなく、明らかに病気だろうと感じました。いったい人間がどうして変わってしまうのだろうという事に興味を持ち、基本を勉強したいと思いました。

越智：これから精神医療の大切さは増すのでは。

鎌田：そうですね。精神疾患は政策的には5大疾病に位置付けられましたし、重要性は増してきています。メンタルヘルスが低下することで起こる社会の損失が非常に大きいと考えられています。昔は精神的に支障をきたしても、個人の弱さと考えられていましたが、今は疾病として捉えられています。治療をして社会への復帰をサポートする事が必要だと思います。副作用の少ない薬もできましたので、治療の選択肢も増えています。ただ病名をつける事で、本人がそれを仕事ができない事の逃げ道に使ったり、逆に周りはその病名に押し込めてしまつて、社会から隔離、排除してしまうことはとても心配です。

ゆうは友人のゆう…遊びのゆう…

越智 「メンタルクリニックゆう」の役割は。

鎌田 病院名の「ゆう」は友人のゆうも、遊びのゆうも、がキーワードになっています。入院ではなくクリニックという形で、地域での生活から離れる事なく治療をしながら社会復帰を進め、暮らしを支え

るということがメインのテーマだと考えています。外来部門は元より、リハビリをしたり患者さんの就職を支援したり、また訪問診療で支えていくという事も重点的にやっています。これまでも地域精神医療のために何が出来るかという事でやってきましたが、病気のため仕事ができなくなった人のリワーク(再就職)を充実させたいと考えています。

趣味は歌に麻雀！

越智：噂ではかなり歌が上手だと聞いていますが、趣味は何でしょう。

鎌田：凝り性なんです。あるところまでやらないと納得しない性格なんです。歌はスナックで歌うと、周りが振り向く感じですかね(笑)声質が良く、高音部に透明感があると思います。家ではうるさいと言われますので、もっぱら車の中で歌っています。マージャンは好きなので弱いです。どちらかというと考え過ぎて攻めきれず、ジリ貧になって勝負にいくと負けるといパターンです(笑)大勝するタイプじゃないですね。メンバーは医者仲間とやっています。仲間と麻雀をしながら、酒を飲み会話を楽しむのが好きなんです。

妻はロータリーに理解あり！

越智：入会して間もないですがロータリーはどうですか。

鎌田：お話しを頂いて、妻に相談しました。反対される

かと思っていたら、「貴方は世界が狭いから、色々な人達と交流を広げるためにも、入りなさい」と言われました。妻の父がロータリアンだったので理解がありました。ロータリーで人間関係を広げ、これからは精神科医としての特性を、どう社会に還元していけるかという事を考えていきたいと思えます。ロータリーの皆様にも理解を頂き、ご協力を頂ければと考えています。



氏名… 鎌田 裕樹
生年… 1962・8・21
会社… 医療法人社団博仁会
メンタルクリニックゆう
院長

家族… 朝緒(あさお) 妻
尚吾(しょうご) 長男
札幌教育大学4年
貴史(たかし) 次男
中央大学1年

那美(なみ) 長女
駒沢大学苫小牧高校2年